

(提案12)

第200回幹事会（平成26年9月11日）での指摘事項に対する回答
 提言案「地球に生きる素養を身につけよう「地球が好きになる教育の勧め」

地球惑星科学委員会社会貢献分科会委員長
 北里 洋

過日、幹事会において長時間ご審議いただき、頂戴した指摘に対して、以下のように対応いたしました。ご査収くださいますようお願い申し上げます。

幹事会の指摘を踏まえ、提言案ではなく報告案として、再度幹事会で審議いただきたく思います。

■主な指摘事項

	指摘	該当 頁等	対応
1	「地球に生きる素養」に関し学習すべき内容が明確に示されていないので、どのような素養を身につけるべきとしているかが不明である。「地球に生きる素養」として学習すべき内容を明記すべきである。	全体	「地球に生きる素養」は、変動する地球に起こる自然現象を理解し、災害をふくめて予測した上で、行動を起こすことのできる素養を持つことをおおきな一例となる。 自然を体験し、観測し、予測する力を刷り込むように身につける事が大事であるので、現行教科を横断する内容を含むことになる。副読本を作って、教科間を横断する内容について補う事にする。
2	本文中、現状に対する批判的指摘が、例えば、以下のよう、各所でなされている。 ・「全国の <u>小学校教員採用者における私学出身者の割合が5割を超えており・・・小学校教諭の資質が心配な状況</u> になっているのである。」(P.4(3)) ・「その教員が「地球に生きる素養」を学び、身につけることを助長し、この分野を教える教員の質の向上を保障する。これによって <u>教員の質の低下が教育の質の低下を招いている、現在の教育の悪循環</u> からの脱却が可能となる。」(P.7(4)ウの最後) ・「 <u>学力バランスのとれていない教員志望の学生が</u>	全体	現状に関して批判的な部分のうち、根拠を示せないものは、ご指摘に従い検討し、削除、あるいは、文章表現を和らげるようにして批判にはならないように工夫しました。 なお、ジオパークについては産総研にあり事務局長が委員であるので、確認し、齟齬がないように修正しました。

	<p>多く、目的に合致した資質を持つ教員を確保することは難しい。」(要旨 2 3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「最近急増している「ジオパーク」では、ネイチャーガイドや案内者を揃えることが求められている。しかし、これらのガイドや案内者を公的に育成する制度はなく、その質を点検・評価する手段もない。」(P.7(4)エ) <p>これらの記述は、本提言の現状認識として基礎となるので、上記の根拠となるデータを提示して十分なエビデンスを示すとともに、関係者に対して礼を失しない表現に留意することが必要である。</p>		
3	<p>本提言は、学校教育に関わる提言であり、学校教育制度の何をどう変えるべきかを具体的に記述することが必要と思われるが、“「地球に生きる素養」は、学校教育の期間に繰り返し学習することを通じて、身につけることができる”という記述だけでは不十分である。現行教育制度のどの点をどう変更することを求めているのか、先方に提言の意図が明確に伝わるように、抽象的な表現ではなく、具体的に明示すべきである</p>	P.8 4 提言 提言 1	<p>「地球に生きる素養」は文系から理系に亘る複合的かつ総合的な内容を包含する。たとえば、災害発生予測につながる諸現象を科学的根拠を示しながら解説し、災害予測し、巻き込まれないように回避するという一連の自然のプロセスと人間行動とを副読本には記述して行きたい。 本件は、その重要性を報告する。</p>
4	<p>本提言では、「地球惑星検定」について民間が試験を実施するとのことである(P.6)。試験の実施主体の選択も含め、どのような社会的意義があることによって、日本学術会議がこのような検定を支持するのかを明記することが必要である(P.8の提言に関して)。</p>	P.6 (3)及 びP.8 4 提 言 提 言 3 8 -10 行 目	<p>既存教科内容の大きな変更ではなく、変動する地球に生きる素養を身につける事を副読本で理解してもらうため、知識の確認の手段として民間による実施を選択した。大規模地震津波、気象災害、など被災される内容の軽減、救援活動に従事するもの、ネイチャーガイド、学芸員等、自然に関わる多くの人たちが受験して、知識を確認することが必要であると考え、学術会議からその重要性について報告をするもの。</p>

5	<p>文の推敲が不足している。</p> <p>根拠が示されないままに、同じことを繰り返し述べている箇所が多いように思われる。</p>	全体	<p>私の筆力のなさもあり、申し訳なく思います。修正いたしました。</p>
6	<p>12行目：「災害や環境などの地球に生きるゆえに関わる問題から・・・」⇒「災害や環境などの、地球に生きるゆえに関わる問題から・・・」</p> <p>14行目： 身の回り ⇒ 身の周り</p> <p>下から9行目： 2)「地球を好きになる」教育の初等・中等教育における取扱」というタイトルと文章の内容が合っていない</p>	P.ii	<p>2)は確かにタイトルと内容が合っていない為に、削除しました。</p>
7	<p>「地球に生きる素養」、「地球に生きていく素養」とわざわざ下線を引いて使い分けているが、その違いがよく分からない。また、「地球に生きる素養」「地球に生きる素養を身につける」などカギ括弧の使い方がいろいろである。</p> <p>提言1では「地球に生きる素養を身につける」学習・・・、提言2では「地球に生きる素養」を身につける機会・・・、となっている。</p> <p>タイトルは「地球が好きになる教育」であるが、要旨や本文中では「地球を好きになる」になっている。</p> <p>提言1、2は「・・・する」となっているが提言3は「・・・の提案」と体言止めになっていて不統一。</p>	P.iii	<p>「地球に生きる素養」に全て統一し、「地球が好きになる教育」を副題から外し、具体的に「自然を理解し、災害の発生を予測し、避ける知恵-としました。その趣旨の文章を、提言本文では多用しました。</p> <p>不統一な文章を修正しました。</p>
8	<p>12行目 「方や」 ⇒ 「片や」</p>	P.1	<p>直しました。</p>
9	<p>20行目： 「地球や自然から被る問題」 言葉遣いがオカシイ</p> <p>21行目： 「素養があるかどうか」 「素養」有無(1/0)の問題ではなく、レベルの問題であろう・</p> <p>下から9行目 「高い視野」 ⇒ 「高い視点」、または、「広い視野」</p> <p>下から8行目： 「ここ10年来、日本国民の知識は深くなったものの、広範な知識を身につけ、高い視野か</p>	P.2	<p>変更しました。</p>

	<p>ら考えることができるようになっているとは言い難い」 何を根拠にそう言えるのか？</p>		
10	<p>5 行目：「努力を仕様としている」⇒「努力をしようとしている」</p> <p>17 行目：「バイアスのかかった現象」 現象にバイアスがかかっているのではなく、その解釈にバイアスがかかるのではないのか。</p> <p>下から 9 行目： 「この原因の一つは、小学校教員免許を取得する学生は、・・・理科に対する苦手意識を持っている」 根拠となるデータを示すことが必要であろう。</p>	P.4	<p>不注意な言葉使いを直しました。</p> <p>直しました。</p> <p>この文章も、定量的な証拠がないので、削除しました。</p>
11	<p>1 行目： 「身に付いたかどうかは、なんらかの試験あるいは検定制度によって・・・」 検定受験を義務付けることを提言するのであれば重大なポイントである。</p> <p>下から 11 行目： 「・・・仕向けることができる」 上から目線の表現に思われる。</p> <p>下から 7 行目 「現在、コーディネーター育成コース、ナチュラルリスト養成講座など・・・、知識レベルは様々であり、その効果は保証できない」 ダメ出しをするなら、その根拠を提示する必要がある。</p>	P.5	<p>検定は義務づけるのではなく、災害から逃れる知恵を身につけているかどうかを確認しておくといいいでしょうという、サジェスチョンである様に記述しました。</p> <p>上から目線の文章は表現を変えました。</p> <p>コーディネーター、ナチュラルリスト等、横に並べては評価出来ないことですので、批判的には書かない様にしました。</p>
12	<p>下から 14 行目</p> <p>3. 「地球・惑星検定」 目次では「地球・惑星検定」の提案、となっている。</p>	P.6	直しました。

13	<p>19行目 「ことを考えられる」⇒「ことが考えられる」</p> <p>下から14行目 「・・・ことも考えられるのだろう」 ⇒ 「・・・ことも考えられる」</p> <p>下から4行目 「本検定を課すことが・・・」 検定受験を義務化するという趣旨か？</p> <p>最下行:「地球・惑星検定」ので ⇒ 「地球・惑星検定」で</p> <p>教員研修で「地球・惑星検定」で一定以上の成績を収めることを必須とする、というのは、「地球・惑星検定」の民間による実施と絡めると利権の温床となりかねないという疑問がある。</p>	P.7	<p>ご指摘の文を直しました。</p> <p>検定を課すという表現を止めました。</p> <p>教員研修の際に、検定を受けさせるようにする表現を止めました。</p>
14	7行目 「過程」⇒「課程」	P.9	修正しました
15	本文中に参考文献の引用箇所を、学術会議の意思の表出の標準スタイルに従って示していただきたい。	参考文献	直しました
16	<p>「提言」「提言案」「提言(案)」など用語がまちまちなので統一していただきたい。</p> <p>下から5行目: 地球惑星科学委再員会 ⇒ 地球惑星科学委員会</p> <p>最下行: 日本学術会議 ⇒ 日本学術会議幹事会</p>	P.11 審議経過	<p>統一しました。</p> <p>修正しました</p> <p>加えました</p>